

左：図1、右上：図2、右下：図3

# 地方都市における公共施設群配置モデルの 確立に関する基礎的研究

A Basic Research on Establishment of a Model for Layout of Public Facility  
Groups in Local Cities

都市計画、公共施設、中心市街地活性化、立地選定

赤塚 拓

Akatsuka Taku

大学院 芸術文化科学研究科

指導教員 大氏 正嗣 副指導教員 藪谷 祐介

現代の公共施設は、市民ニーズの変化や自治体の財政状況の悪化等の理由から、公共施設マネジメントに基づく整備・運営が求められている。さらに、地方では地域活性化の核としての役割を期待されている。公共施設は、都市の様々な周辺施設と関係性を持っている。公共施設の配置計画において、これらの施設を群として捉え、施設間の連携を考慮した新しい配置モデルの確立を目指す。これが、地域に対する公共施設の潜在的なポテンシャルを引き出し、効率的で効果的な施設整備・運営を補助すると考える。

## 新しい配置モデル

確立を目指す配置モデルの特徴として、異種用途の公共施設群を扱うことと二つの評価手法から構成されることが挙げられる。

まず、異種用途の公共施設群を扱うことについて。単一施設を対象とする場合と比べ、施設用途が違ふことで、施設スペックや対象とする人々等がそれぞれ異なり、配置に関する評価要素が複雑になる。しかし同時に、様々な用途の施設が立地するリアルな都市に近い条件での配置評価が可能となると考える。

次に、二つの評価手法から構成されることに関し、本配置モデルは、個々の公共施設について群内における立地を評価するハード面と、公共施設の活用度合いを評価するソフト面の二面から配置を評価する。

両者の評価が最大になるような立地を目指す。これにより、公共施設の配置をより詳細に分析することが可能となり、都市の実情に合わせた効果的な施設配置を可能にする。



図4：配置モデルの構成イメージ

## 研究の内容

本研究は全体構想のうちの基礎段階にあたり、公共施設の立地状況や立地選定時の評価基準について調査・分析し、地域活性化の指標の見極め等を目的に行った。

まず、公共施設の立地状況についてである。人口20万人～50万人の中規模地方都市39都市を対象に、中心市街地における公共施設の立地を用途別に分類しプロットした(図5参照)。中規模地方都市を選定した理由は、様々な用途のサービス施設で立地存在確率が80%を超える人口規模だからである。これにより、都市の中心市街地における公共施設の配置の現状を分類し特徴を分析した。また、富山市と金沢市について、公共施設の立地敷地の利用方法の変化を時代ごとに調査した。これにより、時代により変化していく公共用

地の使われ方等の特徴を分析することができた。

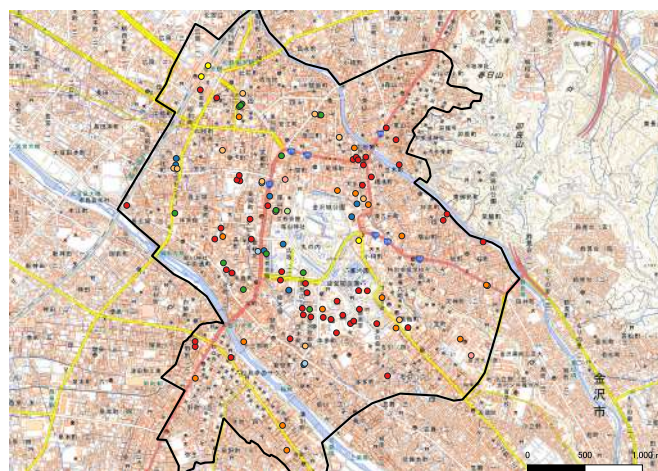


図5：金沢市中心市街地における公共施設の立地状況

次に、公共施設整備時の立地選定における評価基準についてである。公共施設40施設の『整備基本計画』等の立地決定プロセスにおける、適地選定基準を調査した。これにより、自治体等の整備主体が公共施設の立地に求める条件を四項目二十八要素に分類することができた。そして、各々の関係性を分析することで、公共施設と周辺施設の連携について自治体の基準が曖昧であることや、立地選定においてコストや敷地規模等の条件が強い制約になっていると考えられた。

## 結論

公共施設の立地状況や公共用地の利用方法の歴史的経緯、立地選定における評価基準の現況の分析により、中心市街地で公共用地を確保するのが様々な条件により難しくなっていることがわかった。この配置自由度の低下は、理想的な公共施設の立地の実現を困難にさせている。従って、公共施設の配置計画において、一定の具体性を持たせた長期的な計画が必要であると考えられる。そして、異種用途の公共施設群における地域活性化の指標として、施設間における「人流」が考えられる。

## 参考文献

図1、図5：『地理院地図(電子国土ウェブ)標準地図』を利用してQGISソフトにて加工・作成

図2：『今昔マップ on the wab』©谷謙二を利用してQGISソフトにて加工・作成